



人と人をつなぐ、
あなたのベストパートナーでありたい。

IK INABATA

稲畑産業株式会社

株主通信

2019年3月期

2018年4月1日～2019年3月31日





NC2020 最終年度の目標 達成に向けて着実に歩みを 進めてまいります

代表取締役社長 **稲畑勝彦**

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの2018年4月1日から2019年3月31日における事業の概況をご報告させていただきます。

■ 当期の業績について

当連結会計年度における世界経済は、米国では、政策や通商問題の動向による影響が懸念されたものの、着実に景気回復が続きました。欧州では、ユーロ圏において一部に景気の弱さもみられ、ドイツでは足踏み状態になりました。アジアでは、中国において景気が緩やかに減速に転じました。インドネシアやタイなど新興国では、景気は緩やかに回復しました。

一方、日本経済は、緩やかに景気回復が続きましたが、足元では企業の輸出や生産に弱さもみられ、通商問題等の影響による不透明感が高まりつつあります。

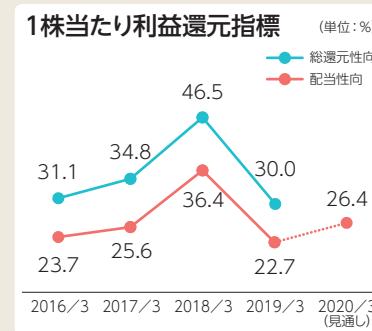
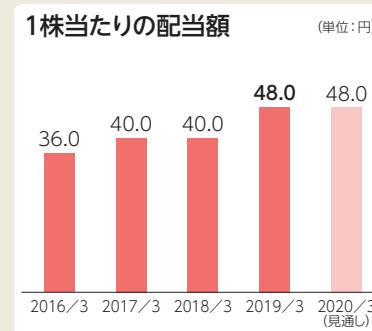
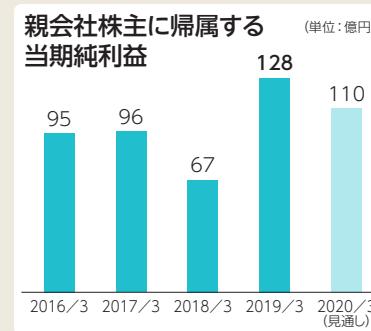
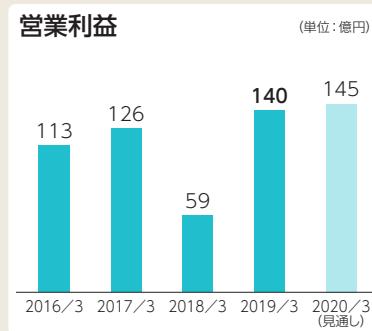
こうした中、当社グループの連結ベースでの売上高は、634,740百万円(対前期比2.2%増)となりました。利益面では、営業利益14,031

百万円(同135.3%増)、経常利益14,309百万円(同124.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益12,896百万円(同91.2%増)となりました。

前期は、欧州子会社において太陽電池関連事業に対する貸倒引当金を計上した影響等で営業利益・経常利益が共に大きく落ち込みました。当期はその貸倒引当金の影響がなかったこと、また情報電子事業や合成樹脂事業など当社の主力事業が好調に推移したことから、利益面で大きく改善し、現行の中期経営計画で2年目に計画したレベルに戻すことができました。

なお当期の売上高及び利益はいずれも過去最高を更新しております。

▶ 連結財務ハイライト



■ 中期経営計画「NC2020」
2年目の進捗について

2021年3月期を最終年度とする4カ年の中期経営計画「New Challenge 2020」(略称NC2020)の2年目の進捗状況について、定量面・定性面をご説明いたします。

売上高については、過去最高となりましたが、欧州子会社における事業の見直しや、一部、低採算取引を見送った結果、2年目の計画値からは、若干、未達となりました。利益面では、概要でご説明したとおり、主力事業の好調が寄与し、計画値を上回る結果となりました。

続いて、各事業の進捗状況ですが、情報電子事業は、主力の液晶関連の販売が、主戦場である中国を

中心に好調でした。NC2020の期間中、液晶関連市場は緩やかな成長が続くとみえますが、当期は計画時の想定以上に販売が伸長しました。また、インクジェットプリンター関連などOA分野も安定収益に貢献しました。

次に合成樹脂事業ですが、国内外とも全般的に好調でした。特に自動車関連では、当社が強みとする7カ国8拠点で展開する樹脂コンパウンド製造事業を、機能としてフルに活用することで商社取引の拡大を進めてまいりました。その成果が着実に実ってきています。なお、当期の合成樹脂事業の営業利益は、NC2020最終年度の計画値を2年前倒しで達成しました。引き続き更なる成長に向けて、グローバルにビジネスを構築してまいります。

一方、生活産業事業ですが、注力分野である農業を含む食品分野の進捗が想定より遅れています。食品のビジネス全般を子会社に移管・統合して、効率性や機動性を高める施策を取りましたが、まだ期待した効果が十分発揮されていません。早急に体制を整え、巻き返しを図ってまいります。また、北海道で展開する自社のブルーベリー農園や野菜の栽培も想定より遅れ気味ですが、食品関連は社会問題としても重要なテーマですので、将来の収益源となるようパートナーと協力して育成を進めてまいります。

■ 配当について

当期の期末配当金につきましては、1株当たり28円とさせていただきます。すでに2018年12月

3日に実施済みの中間配当金1株当たり20円とあわせまして、年間配当金は1株あたり48円となります。

■ 株主の皆様へ

当期は、NC2020の2年目の軌道に戻し、足固めができた1年となりました。引き続き収益基盤を強化し、重点施策をひとつずつ着実に実行することで、2021年3月期の目標達成に向けて全力で取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

2019年6月



中期経営計画「NC2020」

▶ 達成状況

| | 2019年3月期 実績 | 2019年3月期 NC2020計画値 | 達成率 |
|---------------------|----------------|-----------------------|------|
| 売上高 | 6,347億円 | 6,600億円 | 96% |
| 営業利益 | 140億円 | 135億円 | 104% |
| 経常利益 | 143億円 | 140億円 | 102% |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 128億円 | 105億円 | 123% |
| 為替レート (米ドル) | 110.92円 | 110.00円 | — |

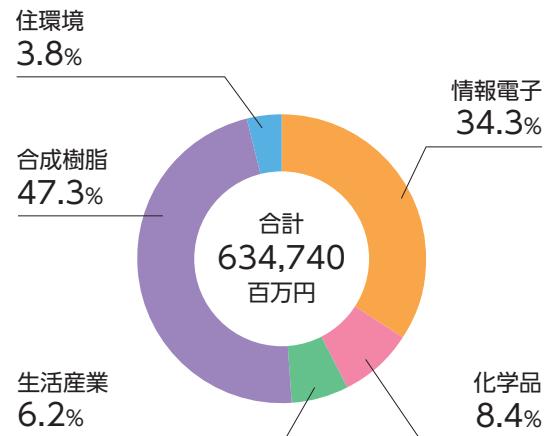
▶ 中期経営計画「NC2020」最終年度の目標

| | 2021年3月期 |
|---------------------|----------|
| 売上高 | 7,300億円 |
| 営業利益 | 155億円 |
| 経常利益 | 160億円 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 120億円 |
| ネットD/Eレシオ | 0.4倍以下 |

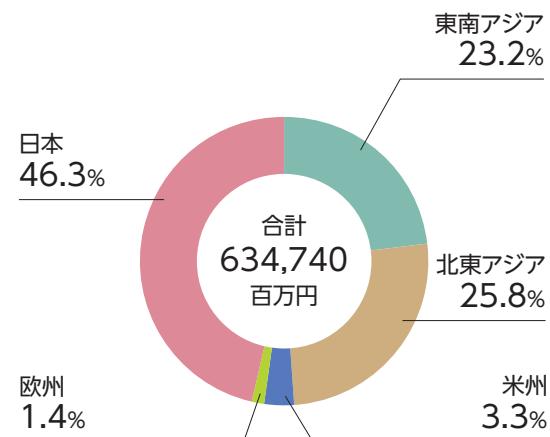
▶ 中期経営計画「NC2020」の重点施策

- 1 海外事業の更なる拡大と深化
- 2 成長が見込める市場・未開拓分野への注力
・自動車、ライフサイエンス・医療、環境・エネルギー分野へ
引き続き注力
・農業を含む食品分野への新たな展開
- 3 グローバルな経営情報インフラの高度化
- 4 商社ビジネス拡大に向けた投資の積極化
- 5 保有資産の継続的な見直しと財務体質の強化
- 6 グローバル人材マネジメントの確立

事業区分別売上高構成比 (2018年4月1日～2019年3月31日)



所在地別売上高構成比 (2018年4月1日～2019年3月31日)



情報電子事業



世界各地の拠点と連携し、原材料だけでなく、ワールドワイドのサプライチェーン構築などの機能をご提供します。

▶セグメント別売上 (単位:億円)



売上高 **217,904** 百万円 対前期比 **1.4%**増
 セグメント利益 **4,819** 百万円 同

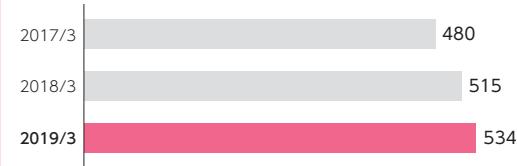
- 液晶関連では、偏光板の販売が中国において伸長しました。
- インクジェットプリンター・複写機関連では、販売が伸長しました。
- 太陽電池関連は、部材の販売が大幅に減少しました。二次電池関連では、材料の販売が好調でした。
- 半導体関連では、装置の販売は減少しましたが、材料の販売が微増となりました。
- 利益面では、前期に発生した欧州子会社における太陽電池関連事業に対する貸倒引当金の計上が当期はなかったことの影響等もあり、前期と比べて大幅に増加しました。

化学品事業



マーケット、商材の専門知識に加えて物流関連の機能をいかし、顧客のニーズに合わせた最適なソリューションをご提案します。

▶セグメント別売上 (単位:億円)



売上高 **53,417** 百万円 対前期比 **3.6%**増
 セグメント利益 **1,379** 百万円 同 **430.8%**増

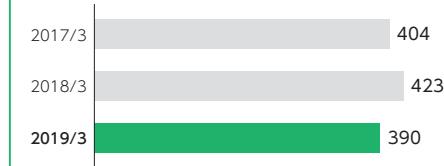
- 自動車分野では、エアバッグ向けの原料販売は低調でしたが、放熱材原料の販売が好調で、全体として横ばいでした。
- 樹脂原料・添加剤の原料販売は堅調でした。
- 塗料・インキ分野向け原料販売は、国内及び中国で好調でした。
- 製紙業界向け薬剤の販売は、堅調でした。
- 接着剤関連の原料販売は、堅調でした。
- 利益面では、前期に発生した貸倒引当金の計上が当期はなかったことの影響もあり、前期と比べて大幅に増加しました。

生活産業事業



ライフサイエンスと食品を通じて、人々のより健康で快適な生活に貢献します。

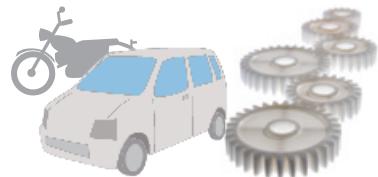
▶セグメント別売上 (単位:億円)



売上高 **39,046** 百万円 対前期比 **7.9%**減
 セグメント利益 **1,310** 百万円 同 **31.8%**減

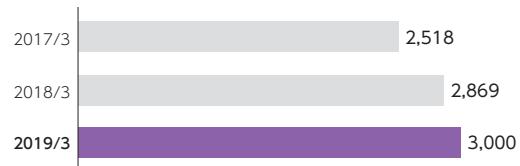
- 医薬品関連において抗生物質用原料の販売が減少しました。海外では、欧州におけるライフサイエンス関連の事業が低調でした。
- ホームプロダクツ分野は、日用品原料や化粧品原料の販売が横ばいでした。
- 食品関連では、水産品において、輸入水産加工品の販売が堅調でした。国内では寿司ネタ用水産品の販売が対前期比で伸長しました。海外では、米国においてエビ・サーモンの販売が好調でした。農産品では、ブルーベリーの販売が減少しました。

合成樹脂事業



国内外のネットワークとグループのメーカー機能を活用し、材料の選定から加工に至るまで顧客をトータルにサポートします。

▶セグメント別売上 (単位:億円)



売上高 **300,094**百万円 対前期比 **4.6%**増
 セグメント利益 **6,341**百万円 同 **14.4%**増

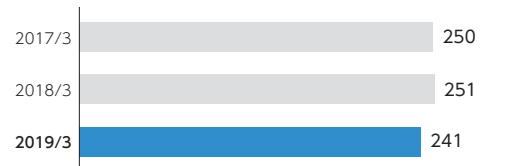
- 樹脂の販売は、国内では、自動車、食品・日用品・化粧品容器向けなど概ね好調でした。
- 東南アジアでは、自動車向けに加え、OA向けの販売が伸長しました。
- 樹脂コンパウンド事業では、メキシコ拠点が改善は進むものの、利益面で苦戦しました。
- フィルム・シート関連では、コンビニ関連、飲料向けの包材や海外でグリップテープの販売が伸長しました。

住環境事業



原材料の調達から最終製品までの加工、物流をトータルに担う「一貫ビジネス」を展開、安心してご使用いただける商材をお届けします。

▶セグメント別売上 (単位:億円)



売上高 **24,105**百万円 対前期比 **4.1%**減
 セグメント利益 **44**百万円 同 **71.7%**減

- 環境資材関連では、木質ボード向けや非住宅分野向けの資材販売が伸長しました。
- 住宅建材関連では、大手ハウスメーカー向けなどの資材販売が低調でした。
- 海外関連では、欧州輸入材の販売や東南アジア向けインフラ案件が低調でした。

特集

IK グループ会社紹介
 稲畑インドネシア
 Pt.Inabata Indonesia

自社物流倉庫で自動車業界を開拓

2017年稲畑インドネシアは、首都ジャカルタ近郊に保有能力5千トンの倉庫を開業しました。製造・加工・マーケティング機能に加え自社倉庫・自社配送の機能を持つことで、物流をトータルコントロールし、お客様を悩ます納期問題を改善。

中期経営計画の重点分野である自動車業界はじめ新規ビジネスを獲得し、2019年春には倉庫の保有能力を倍増の1万トンに拡大しました。



Q.インドネシアで、自社物流倉庫を開業したのはなぜ？

インドネシアで製造業を営むお客様は、渋滞による納期遅延に日々悩まされていたからです。私たちは自社倉庫を持ち自社で物流を組むことで、物流コスト削減と納期問題の改善に取り組みました。

Q. 当社の倉庫の特徴は？

温度管理ができるスペースを保有していることと、倉庫の管理水準が高いことです。商品の特性に合わせた温度管理ができ、お客様から品質の安定化に寄与していると評価いただいています。

長年日本で倉庫業を営む企業とパートナーを組み、システム管理と倉庫スタッフの育成をした結果、作業時間は従来の外部営業倉庫使用時に比べて大幅に短縮されました。

Q.今後の展望は？

物流を自社管理することによりコスト競争力が増したうえ、渋滞でもお客様の工場へ複数の部品をスムーズに納入できたことから、自動車業界をはじめとした新規ビジネスを獲得できました。

今後は蓄積した物流管理ノウハウをいかして、同様の問題を抱える他国への展開も考えています。



社長 磯村 彰彦

稲畑インドネシア
 Pt.Inabata Indonesia

資本金 : 19,000千米ドル
 設立年 : 1991年
 事業内容 : IT関連製品・合成樹脂・化学品等の輸出入及び販売
 所在地 : インドネシア ジャカルタ

▶ 連結貸借対照表 (要旨)

(単位: 百万円)

| 科目 | 前期末 2018年3月31日現在 | 当期末 2019年3月31日現在 |
|----------------|---------------------|---------------------|
| 流動資産 | 261,785 | 256,567 |
| 固定資産 | 90,955 | 109,947 |
| 資産合計 | 352,741 | 366,514 |
| 流動負債 | 175,685 | 164,618 |
| 固定負債 | 34,119 | 37,198 |
| 負債合計 | 209,805 | 201,817 |
| 純資産合計 | 142,936 | 164,697 |
| 負債純資産合計 | 352,741 | 366,514 |

▶ 連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位: 百万円)

| 科目 | 前期 2017年4月1日～ 2018年3月31日 | 当期 2018年4月1日～ 2019年3月31日 |
|------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| 営業活動による キャッシュ・フロー | 5,960 | 12,510 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | 5,086 | 743 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | △ 4,901 | △ 19,546 |
| 現金及び現金同等物に 係る換算差額 | △ 31 | △ 54 |
| 現金及び現金同等物の 増減額 | 6,114 | △ 6,346 |
| 現金及び現金同等物の 期首残高 | 22,935 | 29,235 |
| 連結の範囲の変更に伴う 現金及び現金同等物の増減額 | 185 | 122 |
| 現金及び現金同等物の 期末残高 | 29,235 | 23,011 |

▶ 連結損益計算書 (要旨)

(単位: 百万円)

| 科目 | 前期 2017年4月1日～ 2018年3月31日 | 当期 2018年4月1日～ 2019年3月31日 |
|------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| 売上高 | 621,137 | 634,740 |
| 売上総利益 | 44,854 | 47,257 |
| 販売費及び一般管理費 | 38,891 | 33,226 |
| 営業利益 | 5,962 | 14,031 |
| 営業外損益 | 412 | 278 |
| 経常利益 | 6,374 | 14,309 |
| 特別損益 | 6,952 | 4,486 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 6,744 | 12,896 |

- point 1 固定資産の増加**
時価の上昇により投資有価証券が増加したこと等により、18,991百万円増加しました。
- point 2 流動負債の減少**
短期借入金が増加したこと等により、11,067百万円減少しました。
- point 3 純資産の増加**
利益剰余金やその他有価証券評価差額金が増加したこと等により、21,760百万円増加しました。
- point 4 営業利益の増加**
主力ビジネスの好調と前連結会計年度に発生した欧州子会社における太陽電池関連事業に対する貸倒引当金の計上が当連結会計年度はなかったことの影響等により、8,068百万円増加しました。
- point 5 親会社株主に帰属する当期純利益の増加**
投資有価証券売却益が減少したものの、経常利益が増加したこと等により、6,152百万円増加しました。

▶ 会社概要

(2019年3月31日現在)

会社名 稲畑産業株式会社
 創業年月日 1890年10月1日
 設立年月日 1918年6月10日
 資本金 93億6千4百万円
 従業員数 632名(グループ会社への出向者を含む) [連結4,184名]
 大阪本社 大阪市中央区南船場一丁目15番14号
 東京本社 東京都中央区日本橋本町二丁目8番2号
 名古屋支店 名古屋市西区名駅二丁目27番8号
 営業所 塩尻営業所、浜松営業所、九州営業所(霧島市)

▶ 株式情報

(2019年3月31日現在)

発行可能株式総数 普通株式 200,000,000株
 発行済株式の総数 普通株式 63,499,227株
 株主数 7,506名

大株主の状況 (上位10名)

| 株主名 | 持株数 (千株) | 持株比率 (%) |
|---|-------------|-------------|
| 住友化学株式会社 | 13,836 | 22.8 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 2,921 | 4.8 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 2,802 | 4.6 |
| みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社 | 1,736 | 2.9 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9) | 1,397 | 2.3 |
| DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO | 1,276 | 2.1 |
| SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT | 1,245 | 2.0 |
| 稲畑 勝雄 | 1,161 | 1.9 |
| 株式会社みずほ銀行 | 1,114 | 1.8 |
| 丸石化学株式会社 | 961 | 1.6 |

(注)当社が保有する自己株式数2,710,182株(ただし「株式給付信託(BBT)」制度の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式100,000株を除く)につきましては、上記の表及び持株比率の計算より除いております。

▶ 役員

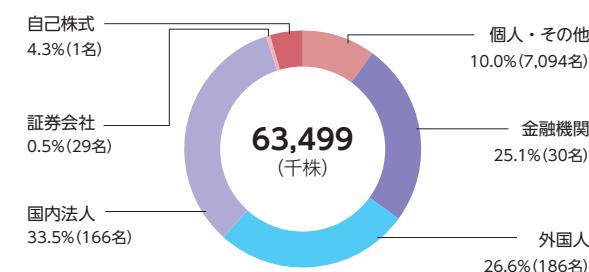
(2019年6月25日現在)

代表取締役社長執行役員 稲畑 勝太郎 常勤監査役 望月 卓
 代表取締役専務執行役員 赤尾 豊弘 監査役 高橋 慶孝
 代表取締役専務執行役員 横田 健一 監査役 森本 親治
 取締役常務執行役員 佐藤 友彦 監査役 柳原 克哉
 取締役常務執行役員 杉山 勝浩 執行役員 小田 吉哉
 取締役常務執行役員 安江 範臣 執行役員 大橋 基雄
 取締役 蟹澤 俊行 執行役員 幡本 裕之
 取締役 出口 敏久 執行役員 久保井 伸和
 取締役 佐藤 潔 執行役員 河合 紳也

(注)1. 取締役 蟹澤 俊行、出口 敏久及び佐藤 潔は、社外取締役であります。
 2. 監査役 高橋 慶孝、森本 親治及び柳原 克哉は、社外監査役であります。

▶ 所有者別株式分布状況

(2019年3月31日現在)



▶ 株価の推移 (月間終値)



▶ 株主メモ

| | |
|-----------------------|--|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 基準日 | 定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日 その他必要がある時は、あらかじめ公告して定めます。 |
| 定時株主総会 | 毎年6月開催 |
| 公告の方法 | 電子公告 当社のホームページに掲載します。 https://www.inabata.co.jp/koukoku ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所 市場第1部 |
| 証券コード | 8098 |
| 単元株式数 | 100株 |
| 会計監査人 | 大阪市中央区瓦町三丁目6番5号 銀泉備後町ビル 有限責任 あずさ監査法人 |
| 株主名簿管理人及び 特別口座管理機関 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 |
| 株主名簿管理人 事務取扱場所 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| (郵便物送付先) | 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| (電話照会先) | ☎0120-782-031 |
| (ホームページURL) | https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html |

[株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について]

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。

[特別口座について]

株券電子化前にほふり(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

定時株主総会に関するご報告

定時株主総会に関する決議ご通知につきましては、書面のご送付に代えて、当社ホームページにてご案内させていただいております。

<https://www.inabata.co.jp/investor/>

株主優待制度について

株主の皆様の日頃のご支援に感謝して、毎年9月30日現在の株主名簿に記載された1単元(100株)以上保有の株主様に、株主優待品をお送りしております。

■ 株主優待の内容 当社オリジナルQUOカード



ご送付の時期

毎年12月初旬頃に、第2四半期株主通信と併せて発送いたします。

継続保有期間3年未満の株主様

QUOカード1,000円分

継続保有期間3年以上の株主様

QUOカード2,000円分

※継続保有期間3年以上とは…

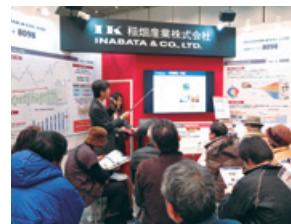
100株以上を3年以上継続保有(9月末日、12月末日、3月末日、6月末日の株主名簿に同一株主番号で連続記載)されている株主様をいいます。

Topics

「野村IR資産運用フェア2019」に出展しました

東京国際フォーラムで行われた「野村IR資産運用フェア2019」に出展いたしました。

講演会場では、稲畑社長による会社説明会を行いました。当社ブースではミニ説明会を実施し、多くの個人投資家・株主の皆様にご参加いただきました。



日時:2019年1月11日(金)~12日(土)
場所:東京国際フォーラム
来場者数:12,000名
主催:野村インベスター・リレーションズ株式会社